

## 第8回芸備線再構築協議会幹事会 議事概要

日時：令和8年1月27日（火）14：00～14：30

場所：TKPガーデンシティ岡山

出席者：中国運輸局 阪場交通政策部長（幹事長）、中国運輸局 靱鉄道部長（幹事長）、岡山県 下野間県民生活部長、広島県 岡田地域政策局長、新見市 山縣市民生活部長、庄原市 岡本生活福祉部長、JR西日本岡山支社 梶浦副支社長、JR西日本広島支社 奥井副支社長、広島県バス協会 赤木専務理事、岡山県バス協会 伊藤専務理事、岡山県 光畑技術総括監、広島県 藤井道路河川管理課長（代理）、新見市 西山建設部建設課長、庄原市 杉谷環境建設部建設課長、岡山県警 大塚交通規制課長、広島県警 松浦交通規制課長補佐（代理）、呉工業高等専門学校 神田教授、中国地方整備局 村田建政部長、三次市 呑谷地域共創部長、安芸高田市 高下企画部長、広島市 山田道路交通局参与（代理）

芸備線再構築協議会について第8回幹事会を開催したところ、議事概要は以下のとおり。

### 1. 開会

### 2. 幹事長挨拶

#### 【阪場幹事長】

- ・寒波が到来する中、また偶然にも選挙公示日になってしまった中、構成員・報道関係者におかれては、御参集いただき感謝申し上げます。
- ・前回12月の幹事会では、議長指示に基づいて、来年度の実証事業・調査事業について、構成員間の合意を図ることができた。現在、それぞれ自治体において2月議会に向けて準備を進めていただいている。
- ・本日は、これまでの議論の経過報告が中心となるが、今年度事業の進捗状況や、来年度事業の検討状況、主としてバス実証の運行ルート案などについて議論したい。
- ・本日も、沿線地域にとって20年後30年後40年後に残すべき持続可能な公共交通が何なのか、そのためにどんな議論が必要なのか、といった観点から、真摯で建設的な議論をお願いしたい。
- ・本日は新たな合意事項があるわけではなく、これまでの議論の成果報告を行うための幹事会として開催する。

### 3. 議事（1）芸備線再構築に関する実証事業（実証事業A）実施状況

#### ○事務局から、資料1により、実証事業について説明

- ・第7回幹事会以降の動きを中心に説明する。

- ・ 4 頁は、列車の観光コンテンツ化。
- ・ 「ガストロノミー列車」の運行日が2月14日と21日の2回に決まった。
- ・ 熊本隊長による地域ガイドについて、2月末まで実施する予定であったが、12月いっぱいでは終了となった。
- ・ 報道等で御承知のとおり、ガイドである熊本洋道様が、去る1月7日に急逝された。熊本様は、地元庄原を愛し、また自然を愛し、これまでも庄原の観光振興に多大な貢献をされてきたと聞いている。また、この地域ガイドツアーも大変な人気であり、軽妙な語り口で沿線地域の魅力をユーモアたっぷりに語るなど、観光客を楽しませていただいた。改めて、協議会に多大な貢献された熊本様の生前の御功績を偲び、謹んで哀悼の意を表したい。

- ・ 5 頁は、観光商品の提供。
- ・ 庄原側の駅弁販売は、諸般の事情により現在休止しているが2月7日から再開する。
- ・ 庄原側ではオリジナル駅印を、新見側では駅前そばを販売する。

- ・ 6 頁は、観光ツアーの造成。
- ・ 新見市では、コスプレツアーに加えて、「冬の芸備線 秘境駅をめぐる旅」を2月14日に実施する。
- ・ 庄原市では、企画乗車券等のうち、観光施設や店舗での割引サービスや市内循環バス乗車サービスについて、1月からサービスを開始した。

### 3. 議事（2）芸備線再構築に関するより専門的な分析等調査事業（新調査事業）実施状況 ○事務局から、資料2により、新調査事業について説明

- ・ 2 頁～5 頁は、若干の進捗があるが、12月の幹事会と概ね同じ内容。
- ・ 7 頁は、列車の乗込調査・アンケート調査の一覧。
- ・ 列車・二次交通それぞれについて、乗車して乗車人数のカウント調査と利用者へのアンケート調査を行った実施日を追記している。
- ・ 8 頁以降は、休日日中列車アンケートの傾向分析。
- ・ 9～15頁で、8～12月のアンケート結果を元に、芸備線利用のきっかけや消費単価、来訪目的などについてグラフで整理した。
- ・ 16頁は、休日列車調査に関する調査受託者としてのサマリー。
- ・ 利用傾向としては、休日日中列車は一定の利用が続いているが、乗車自体が目的との回答が多くみられた、また、観光宿泊を伴わず通過する利用が多いが、実証A開始当初と比較して観光や宿泊が増えた、といった内容。
- ・ 課題としては、冬期の利用者減少と消費額の低さが懸念されるが、1月までの調査結果を踏まえて、最終的な効果検証を行う、と報告されている。

- ・ 17頁以降は、事業構造変更など鉄道再構築に関する増加費用の試算。
- ・ 事業構造変更などの増加費用の試算は、昨年度の調査事業Aの報告に基づいて、この新調査事業の中で整理することとなっていたもの。
- ・ これらは、あくまで調査受託者としての報告に過ぎず、事業構造変更について構成員がコミットしたわけではなく、比較検討に当たってのデータ整理の一環に過ぎないという点に留意されたい。
  
- ・ 18頁は、再構築方針作成に向けた流れとして、第7回幹事会で説明した資料の再掲。
- ・ オレンジの色塗り箇所のとおり、鉄道と他モードの比較検討のための初期費用・運営費用の整理として、再構築に要する費用、将来的な運営に要する費用を精緻化していくこととなっている。
  
- ・ 19頁は、鉄道再構築の場合の事業構造変更として上下分離・みなし上下分離・第三セクターが考えられるとして、それらのメリット・デメリットなどを整理している。
  
- ・ 20頁は、増加費用の試算範囲。
- ・ 試算範囲としては、実証Aの恒久化の場合の費用と、事業構造変更の場合の費用のみを、次頁以降のとおり試算した。
  
- ・ 21頁は、増加費用の具体的な試算。
- ・ 表のうち、まず初期投資として、実証Aの増便を恒久化するためには、既存車両では不足しており、車両運用などを踏まえると2両程度増車が必要となるため、他事例を踏まえ1両当たり4.5億円、計9億円と試算した。また、観光利用のため、列車を観光仕様に改造する経費として0.8億円と試算した。
- ・ 年間運営費としては、増便の恒久化に当たり、列車1km当たりの運行経費に基づいて2,300万円、観光列車の運行に当たり、観光列車の企画・運用の必要経費として1,600万円、とそれぞれ試算した。また、固定資産税については、条件によって要不要が変わるため、最大400万円を試算し、合計額を3,900～4,300万円と幅を持たせている。
- ・ 22頁は、新会社設立費用や譲渡費用など、事業構造変更のパターンに応じた費用について整理している。
  
- ・ 23～24頁は、他事例における管理機構の資本金や負担金を整理している。
  
- ・ 25頁は、21・22頁の試算結果をまとめている。もちろん、あくまでも調査受託者としての試算にとどまる。
  
- ・ 26頁では、実証Aの恒久化の場合に生じる特定区間の営業費用について、10年平均で1.3億円の費用が見込まれると整理されている。

- ・ 27頁以降は、参考となる国の支援制度。
  - ・ まず、ハード整備として、地域交通法の鉄道事業再構築事業実施計画の認定を受けることにより、社会資本整備総合交付金（社総交）の活用が可能となっている。
  - ・ 28頁、社総交のメニューには、基幹事業のほかに効果促進事業という類型があり、基幹事業の2割以内の事業費で、効果促進事業として車両導入が可能となっている。
  - ・ 29頁、社総交のほか別メニューとして、先進車両導入支援事業という補助制度があり、EV車両など先進車両の導入が可能となっている。
- ・ 30頁は、現状の芸備線を上下分離化した場合に芸備線の3年平均の収支がどうなるかを仮定して、費用を振り分けた試算表。
- ・ 31頁以降は、事業構造変更を行った他地域の費用分担事例を整理している。
  - ・ 32頁は、費用分担については複数の按分方式を組み合わせている旨の整理。
  - ・ 33頁は、それぞれの実際の負担額を整理している。
  - ・ 35～36頁は参考資料として、負担割合の組合せの考え方などを整理している。
- ・ このようなデータを様々収集した上で、今後の比較検討につなげていく。繰り返しになるが、これらは構成員の議論を何ら拘束するものではなく、今後も前提を置くことなく、経済効果比較やその他のデータ整理に基づいて、来年度に最適な交通モードの検討を進めていく。
- ・ 38頁以降は、地域経済効果の検証結果の第2弾。
  - ・ 40頁は、実証Aで実施中の施策の一覧。表の右端、分析予定欄に「本日報告」と記載した施策について、41頁以降で整理している。
  - ・ 前回幹事会と同じく、実証期間当たりと通年換算に分けてグラフ化しているが、個別の説明は割愛する。
- ・ 49頁は、速報のまとめ。
  - ・ これまで費用と効果を集計できた施策ごとに、経済効果を積み上げた。特に休日日中の増便の結果が今のところ積み上がっている。
- ・ 50頁は、速報集計値を数値化したもの。
  - ・ 費用が0.7億円、地域経済効果は1.3億円となっている。現時点で、地域経済効果は調査Aの試算結果を下回っているが、年度末にかけて分析作業を進めていく。
- ・ 51頁は、地域主体のイベントの一覧。
  - ・ 実証Aの強化支援事業の対象にはしていないものの、実証Aに関連した取組を地域で行っていただいているので、その効果も検証し、調査A試算の検証の枠外に、こうした関連事業による経済効果も示すこととしている。

【阪場幹事長】

- ・ 鉄道再構築の増加費用試算については、あくまでデータ整理の一環としており、一例を示したに過ぎない。これ以外にも、構成員の中には、例えば、利便性向上といった機能強化を求めているなどあり、今後の議論で内容を充実させていきたい。

3. 議事（3）令和8年度実証事業・調査事業

○事務局から、資料3により、令和8年度実証事業・調査事業について説明

- ・ 1頁は、第7回幹事会の振り返り。
- ・ 実証Bとして、平日に芸備線沿線の日常利用向けバスの実証運行を実施する予定。
- ・ 2頁は、平日のバス実証運行の主たる運行経路の案。
- ・ あくまでイメージであるが、主たる運行経路案を赤線で示している。沿線の幹線道路を通る経路とするとともに、受託者からの報告に従って機能向上を図るべく、オレンジで示すように、必要に応じて駅・学校・商業施設・病院など主要施設に直接乗り入れることも含めて運行ルートを検討していくこととしている。
- ・ 運行ルートの検討に当たっては、自治体や交通事業者など地域の関係者から意見をいただいた上で、具体化していく。
- ・ 3頁は、平日のバス実証運行の運行区間の案。
- ・ こちらもイメージであるが、実証運行で運行する区間を矢印で示している。芸備線の運行区間に合わせて、新見駅～東城駅、東城駅～備後落合駅、備後落合駅～備後庄原駅の区間と、東城駅～備後庄原駅の区間をバス実証の運行区間とすることを検討している。
- ・ 4～13頁は、参考となる資料として、昨年度の調査Aの報告書から抜粋したもの。
- ・ 調査事業Aでは36項目のデータを収集・分析しているが、4～8頁は、庄原市・新見市における病院・企業立地のデータをとりまとめたものについて掲載している。
- ・ 9～13頁は、庄原市・新見市における駅周辺の拠点地に関するデータをとりまとめたものを掲載している。
- ・ 14頁は、同じく参考となる資料として、特定区間沿線にある高校を地図にプロットしたもの。
- ・ こうしたデータも活用しながら、2頁のオレンジのエリアを中心に、学校・施設への乗り入れや実際の運行ルートを具体化していく。
- ・ 15頁も、再び第7回幹事会の振り返り。
- ・ 実証Bとして、実証Aの鉄道増便と同じ形で、土休日に観光利用向けバスの実証運行を実施する予定。
- ・ 実証Aで今年4～6月の土休日に鉄道増便を実施する。休日のバス実証は、その鉄道増便のダイヤを引き継ぐ形で、7月からバス実証を実施するものである。

- ・それを踏まえて、16頁は、休日のバス実証運行の運行区間の案。
- ・休日バス実証の運行区間は、鉄道増便の運行区間と同じく、新見駅～備後落合駅、備後落合駅～備後庄原駅の区間の運行を想定している。
- ・以上が、平日・休日バス実証に関する運行経路・区間についての説明。
- ・17頁は、来年度の実証事業・調査事業の委託の考え方。
- ・JTB広島支店と野村総合研究所は、それぞれ今年度の事業を受託いただき、これまで協議会の議論に深くコミットいただいている。
- ・来年度の実証事業A・Bや、来年度の方針作成等調査事業についても、これまでの議論に即応する形で、年度当初からシームレスに各施策に着手し、あるいは調査を進めることが必要であり、相手方との調整が整えば、引き続き両社とそれぞれ委託契約を締結したいと考えている。
- ・18～19頁は、参考として、実証事業・調査事業それぞれにおいて、委託を行う項目について当該事業ごとに委託する項目を示している。

#### 【阪場幹事長】

- ・このように、今回初めて事務局から平日・休日のバス実証の運行ルート案を示した。

### 3. 議事（4）その他

#### 【岡山県 下野間県民生活部長】

- ・本日、実証事業Bにおける、運行経路のイメージや、立ち寄り先の候補地に関するデータが示された。
- ・令和8年度において、継続して実施する実証事業Aも含め、実証事業全体が円滑に進行できるよう、今後、本日の幹事会資料を基に、各構成員や交通事業者の意見等を踏まえながら、協議会として具体的な事業内容を早急に検討していく必要がある。
- ・事業の具体化に向けては、地域のニーズや新見市の意向を踏まえた内容となるよう、新見市と連携しながら取り組んでまいりたいと存じており、事務局においても、各構成員と丁寧に議論を進めていただくようお願いする。

#### 【阪場幹事長】

- ・御指摘のとおり地域のニーズ、地域の意見が最も重要であるため、丁寧に進めていく。

#### 【新見市 山縣市民生活部長】

- ・本日、鉄道事業再構築に関する増加費用の試算が示された。本市としては、今後の議論を進めて行く上で重要なポイントになると考えているため、引き続き、様々な調査を進めていただくようお願いする。
- ・また、事務局から令和8年度実証事業Bのバス運行区間のイメージが示され、ルートを検討する上で必要となる、病院、商業施設、高校などの施設が整理された。

- ・今後、3月協議会に向け、具体的な運行ルートや運行ダイヤ、運賃などについて、各構成員と事務レベルで検討していくこととなるが、本市としては、沿線住民の皆様の意見を踏まえた上で、十分な議論を進めていきたいと考えている。

【阪場幹事長】

- ・今回初めて事務局として示した。運行ルート等については、御指摘のとおり、3月の協議会に向けて調整し、3月に事務局として案を示した上で決定することを目指したい。

【広島県 岡田地域政策局長】

- ・来年度予定されている実証事業Bのバス運行の実施に向けては、実際の運行経路やダイヤを検討していく必要があるほか、4月以降も実施される実証事業Aの具体化も含め、引き続き、庄原市などとも連携しながら調整を進めていくので、事務局におかれては構成員や地域住民の理解が得られるよう、丁寧に議論を進めていただくようお願いする。

【阪場幹事長】

- ・来年4月から実証Aも実証Bも事業を開始したいと考えており、準備を進めていく。
- ・新見と同様、庄原の地域のニーズや意見が重要であり、しっかり進めていきたい。

【庄原市 岡本生活福祉部長】

- ・本日、令和8年度の実証事業Bについての検討状況が報告されたが、具体的な運行ルート等についてはこれから構成員間で検討していくことになる。被災により鉄道の運行が止まっている山口県の実証線などと異なり、鉄道による通常運行が行われている中でのバスによる実証ということで、利用される方を実証事業に誘導しながら、比較検討に有効な利用者数や御意見を集めていくということについては、工夫が必要で、非常に難しさがあるように感じている。そのような中、実証事業Bの内容検討に当たっては、鉄道とは異なるバスの特性を活かした実証運行となるよう事務局のリードのもとに進めていただくようお願いする。

【阪場幹事長】

- ・御指摘のとおり難しさがあると思っているため、前回事務局として示した乗車モニターを活用して、ある程度利用者の全体像を把握しながら進めていきたい。

【JR西日本岡山支社 梶浦副支社長】

- ・鉄道事業再構築に関する試算が示された。再構築協議会の議論において、鉄道再構築の場合でも前提は「利便性と持続可能性の向上」であり、そのための「事業構造の変更」とであると認識しており、そのパターンの1つとして実証Aの恒久化の試算が示された。
- ・実証Aでは、行き違い設備の新設が必要にならない範囲内での増便ダイヤを組んでおり、例えば更にダイヤを増やそうとする場合には、より大きな設備投資が必要になってくる。今後の比較検討の議論の中では、鉄道・他モードそれぞれについて、必要な投資や費用を見ながら議論していければと考えている。

- ・実証事業Bの運行計画については、本日で示されたような、目的地になる施設の立地や、地域の移動ニーズを踏まえ、前回の幹事会で整理されたように高校生や高齢者にどのように利用いただくか、観光客にどのようにご利用いただくか、仮説を持ちながら作り上げていくことが重要だと考えている。
- ・バスの方が鉄道に比べて設備上の制約が少なく柔軟な対応が可能になる点を生かし、利便性向上のため、地域のニーズに応じた停留所の設定、本数の増加、学校や病院へ直通する経路などを具体的な計画に組み込んでいく必要があると考えている。
- ・3月の協議会で計画を決定し、GW明けなど1学期の早い段階から実証を開始できるよう、構成員と実務者レベルでしっかり議論してまいりたい。

#### 【阪場幹事長】

- ・増加費用試算の範囲は、あくまで一例であり、御指摘の行き違い設備や、構成員が求めている利便性向上といった費用も考えられる。あくまで一例であって、鉄道再構築の全体額がこれで全てであるわけではなく、また、この全体額が多いのか少ないのかという点も示していない。ミスリードにならないよう留意してほしい。
- ・実証Bのバス実証についても、3月に内容を決定することを目指した上で、(GW明け)5月中旬から開始できるよう準備していく。

#### 【JR西日本広島支社 奥井副支社長】

- ・資料3の17頁のとおり、来年度の実証事業は年度当初から開始する方針のため、今回検討状況が報告された来年度の実証事業A・Bの具体的な内容については3月の協議会までに構成員間で検討し、決定していくという認識でよい。

#### 【阪場幹事長】

- ・具体的な運行ルート案については、3月の協議会での決定を目指し、事務的な調整を行っていききたい。もちろん道路運送法の手続の関係上、全ての内容を3月時点でオープンにすることができないものもあるが、いずれにしても、内容を詰めてまいりたい。

#### 【呉工業高等専門学校 神田教授】

- ・再構築協議会での議論も2年を経過し、まもなく3年目に入ろうとしている。今後、最終的には再構築方針をまとめていくこととなるが、そろそろ方針作成に向けた議論にも入っていかなければならないと認識している。
- ・その際、これまで協議会・幹事会で申し上げたとおり、今この瞬間だけでなく、20年30年先の地域を見据えた場合に、地域にとってどんな鉄道又は他モードの交通の基盤・インフラが必要なのかについて、地域の将来の望む姿・置かれることとなる社会環境からバックキャストして考えなければならぬ、とこれまで一貫して申し上げてきた。
- ・今年度実証事業Aや新調査事業を行い、調査結果も揃ってきた中で、来年度は実証事業Bに入り、来年度にAとBの経済効果などデータ比較を行うことで判明することもあると思われるが、一方で、比較前の今年度の段階でも、これまでの調査事業や実証事業Aの結果から分かってきたこと、評価できることも多いはずである。



- ・したがって、沿線地域からみて、鉄道を含めた地域の交通インフラが、それぞれの地域にとってどのような価値があるということが分かったのか、これまでの調査結果を踏まえてどのように評価しているのかを、2県2市にそれぞれ伺いたい。この場合、定量的価値のみならず、人を運ぶ以外の多面的な価値など定性的価値も含めて伺いたい。
- ・来年度のAとBのデータ比較の前ではあるが、ある程度データも揃ってきたため、この段階で、この取組を通じて何が見えたのか、どう評価しているのか、本日回答を求めるものではないが、早いうちに是非とも伺いたい。

【阪場幹事長】

- ・地域づくりとしての鉄道を含めた交通インフラの価値について、これまでの調査事業・実証事業の取組を通じて2県2市がどう評価しているのかを聞きたいという旨承った。

【阪場幹事長】

- ・短い時間ではあったが濃密な議論ができたと考えている。円滑な議事進行に御協力いただき感謝申し上げます。

4. 閉会